

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

原北中学校 学校通信



令和2年5月14日 第1号
福岡市早良区小田部7-11-1
電話 092-851-3344
発行者 校長 福崎 浩 信



臨時休校から2ヶ月が過ぎました。

臨時休業中におきましては、新型コロナウイルス感染の拡大防止と生徒の健康と安全のためにご協力いただきありがとうございます。

4月1日に原北中学校に着任しました学校長の福崎です。よろしく申し上げます。この間、臨時休校延長、教科書の引き渡し、学習プリントの郵送・配付、担任及び所属学級発表など、緊急メールとホームページだけを使ってのお知らせにも関わらず、ご理解・ご協力をいただいておりますおかげで、滞りなくそれぞれの連絡が行き渡っていることに感謝申し上げます。

本来ならば、着任式・始業式・入学式で、お子様や保護者の皆様に直接、ご挨拶をするところですが、この時期の学校通信でのご挨拶になり申し訳ありません。

5月1日、学校における新型コロナウイルス感染症の対策に関する懇談会「新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動に関する提言」がなされました。

冒頭、基本的な考え方として、「学校における感染リスクをゼロにするという前提に立つ限り、学校に子供が通うことは困難であり、このような状態が長時間続けば、子供の学びの保障や心身の健康などに関して深刻な問題が生じることになる。この感染症については持続的な対策が必要であることを踏まえれば、社会全体が、長期間にわたりこの新たなウイルスとともに生きていかなければならないという認識に立ち、その上で、子供の健やかな学びを保障するということとの両立を図るため、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り提言しつつ段階的に実施可能な教育活動を開始し、その評価をしながら再開に向けての取組を進めていくという考えが重要である。」と述べられています。

今後、14日の専門家会議を受けて、今後の動向が、福岡市教育委員会からなされる予定になっています。

今月に入り、学習プリントのポスティングや、担任を中心とした電話連絡を行ってまいります。引き続き、収束に向けた取組とともに、学習プリントを使った家庭学習の充実を図ってまいりますようよろしくお願いいたします。

本校におきましても、学校教育活動の再開の具体的な方策について、全教職員あげて準備を進めております。子供たちの笑顔、新たな学びに感動する姿が学校に戻ってくる日が一日も早く来ることを、今はただ願っているところです。

保護者の皆様には、メールやホームページ、学習プリントのポスティングの際に同封するお知らせによる連絡体制になりますが、引き続きよろしくお願いいたします。

置かれた場所で環境の主となれ

1年生の皆さん、本校には創立以来、先生も生徒も大切にしてきた変わることのない学校目標、校訓があります。

①挨拶・掃除・学校行事への積極的な参加を通して知・徳・体のバランスのとれた人格を磨き、一人ひとりの進路の実現に繋がる学力向上、②将来に夢と希望を持ち、地域社会に貢献しようとする態度、③相手の立場と人格を尊重し、思いやりと実行力の育成を通して、学校教育目標である「よき社会人としての基盤を身につけるための人間教育」、校訓である「磨き合う」「助け合う」「鍛え合う」を基盤にした教育を推進していきます。

2年生の皆さん、勉強はもちろんのこと、生徒会活動や各種専門委員会、学校行事や部活動の中核として学校を活性化させてください。

3年生の皆さん、個々の良さを生かし歴史に残る大活躍をしてください。同時に、進路選択という人生の大きな岐路が待ち構えているので夢と希望と強い意志をもって、立ち上がる大きな壁を乗り越えてください。

保護者の皆様、価値観が多様化し、電子機器やメディア等を介して、情報や風評が瞬時に流布されるこの時代において、教育をすることの容易ならざること、家庭にとっても学校にとっても同じ重要な課題であると考えております。

生徒の健全な成長を望むならば、すべては子どもたちのために、家庭と学校がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に補完し合う透明性豊かな連携が不可欠かと考えます。

保護者、地域の皆様方のご理解・ご協力を得ながら充実した一年間にしたいと思っております。

道は開ける(成せばなる) 「新吉万円札の顔 渋沢栄一を突き動かしたもの」

令和という新時代を迎えた我が国は、悠久の歴史と、薫り高き文化を継承しつつ、新たな一步を踏み出しました。一方で、AIなどの技術革新やグローバル化が急速に進み、産業や社会の在り方が劇的に変化しています。また、誰もが予想しなかったことや、数十年に一度と言われることが、次々に起こっています。このような時代にあって、人間には、大きな社会変化の中でも、また、かつて経験をしたことのない問題でも、立ち向かっていく力があります。人間ならではの強み、すなわち「高い志を持って、多様な人々と協働し、新たな価値を創造していく力」です。

今こそ、これまで培ってきた豊かな感性や、柔軟な思考力を基盤に、仲間と志を共有しながら、努力を積み重ね、よりよい人生を切り拓くことを願っています。

道は開ける(成せばなる)は、校長1年目から毎号書き続けているコーナーです。

人類は、かつて大きな変化を成し遂げる前に、秩序を守りながら衆知を集め、危機を打開してきました。生徒の皆さんも、今まさにその時かと思えます。この間の学習の成果や自己研鑽のための読書などは、これからの学校生活、社会生活の大きな財産となることを願っています。今回は、新一万円札の顔、渋沢栄一を紹介します。

渋沢栄一(幼名:栄二郎)は、1840年に武蔵国(現在の埼玉県深谷市)に豪農の長男として生まれました。若い頃は江戸で尊王攘夷派の志士たちと親交を持ち、倒幕運動を企てたこともありましたが、1864年25歳の時に一橋家の用人のすすめで、一橋慶喜(後の徳川慶喜)に仕えました。徳川慶喜が江戸幕府の第15代将軍になると、渋沢は幕臣になりました。1867年28歳の時にパリ万博使節団として慶喜の弟・昭武に従いフランスに渡りました。現地では、西洋の近代的な産業や諸制度などを見聞しました。明治維新後に帰国した栄一は、徳川家とともに静岡へと移る事になります。静岡では商法会所(銀行と商社を兼ねたような組織)を作っています。商法会所は日本で初めての株式会社と言われています。これが新政府の目に留まり、渋沢は大隈重信に説得され、明治新政府に出仕することになりました。新政府では財政制度や貨幣制度の導入など、新しい国を創るために力を尽くします。その後、実業家へと転身し、500もの会社の設立に関わります。

渋沢が関わったいくつもの会社を挙げてみると、第一国立銀行(現在のみずほ銀行)、抄紙会社(現在の王子製紙)、大阪紡績(現在の東洋紡)、東京瓦斯(現在の東京ガス)、東京海上保険会社(現在の東京海上日動)などよく知られている会社ばかりです。ちなみにBANKを銀行と訳したのは渋沢です。会社だけでなく、東京株式取引所・東京手形交換所などの設立にも関わっています。渋沢が日本の経済界に与えた影響が非常に大きいことがわかります。そのため、渋沢栄一は、「日本資本主義の父」とも呼ばれています。実業界だけでなく、実業界で活躍できる人材を育成するために日本で初めての教育機関である商法講習所(現在の一橋大学)の設立に携わったり、女子教育を推し進めて日本女子大(現在の日本女子大学)の設立を支援し校長を務めたりするなど、教育界にもその名を刻んでいます。さらに貧しい人や孤児を保護する養育院を運営するなど、社会事業にも力を尽くしました。渋沢が生涯に携わった教育・社会事業の数は600にも及びました。さらには国際親善にも取り組むなど、「実業家」という肩書きでは足りないほど世のために働きました。このため、1926年、1927年と、二度もノーベル平和賞の候補になりました。

渋沢の原動力は、私利と公益の調和を図る「道徳経済合一説」でした。日本において株式会社制度が発達していくのは、明治期に入ってからです。渋沢は初期段階からその普及に大きな役割を果たしたといえます。財閥ものに傘下会社の多くを株式会社化していきますが、本社と子会社との間の株式所有にもとづく強い結びつきを前提とする閉鎖的なものでした。この組織のあり方をコンツェルンといいます。しかし渋沢は、いくつもの企業を成功させながらも、財閥の路線とは一線を画し、非財閥系の株式会社に関わり続けた稀有な存在です。もしも渋沢がいなければ、非財閥系の企業の成長はここまで大きくなかったと言われています。特にインフラ関連は、非財閥系の企業が多く、そこに貢献しているのは間違いないと言えます。

運命を変えたのは、1867(慶応3)年にパリ万博を視察するために、船でスエズ運河を通過していた時でした。運河が民間企業の資金を集めたことによって出来たことを知り、日本でも民間で公の大事業を担うことを考えついたのです。

事業においても一つ渋沢が大切にしていたのは「持続性」です。著書『論語と算盤』には「経営者一人がいかに大富豪になっても、そのために社会の多数が貧困に陥るようでは、その幸福は継続されない。」とあります。「企業が利益だけを追求し、資本を蓄積するだけでは豊かさは持続しない。」「社会に還元していくことで、長期的には社会発展という形で次の世代につながっていく。結果的に企業も持続することになる。」という考えです。ビジネス界に最も影響力をもつ思想家であるピーター・F・ドラッカーが渋沢を師と仰ぐ根底にあるものです。今のサステナビリティ(広く環境・社会・経済の3つの観点からこの世の中を持続可能にしていくという考え方)の原型です。

退任された先生方

教諭 山田 寿美江 先生
 教諭 有田 一郎 先生
 教諭 堤 保臣 先生



着任された先生方

校長 福崎 浩信 先生
 教頭 星子 真由美 先生
 教諭 古村 充 先生
 教諭 倉員 康行 先生
 教諭 福田 誠安 先生
 教諭 木村 安心 先生
 教諭 矢野 和恵 先生
 教諭 徳岡 恵子 先生
 [旧姓：久保]
 教諭 平野 拓 先生
 教諭 田中 俊典 先生
 教諭 竹下 眞司 先生
 教諭 渡邊 寿夫 先生
 教諭 穴田 能久 先生
 職長 馬場 功基 先生
 職員 松元 誠二 先生
 職員 千々岩 聡 先生
 講師 吉原 靖子 先生
 講師 宮田 美恵子 先生
 SC 穂口 まな 先生

離任された先生方

校長 廣瀬 桂次 先生
 教頭 平山 久仁子 先生
 教諭 中嶋 祥子 先生
 教諭 黒木 理恵 先生
 教諭 荒巻 静香 先生
 教諭 堀添 眞由 先生
 教諭 藤田 能範 先生
 教諭 宮本 恵理子 先生
 職長 野下 泰生 先生
 職員 山下 潤二 先生
 職員 田中 智則 先生
 職員 須川 智明 先生
 職員 伊東 克也 先生
 講師 黒瀬 翔太 先生
 講師 清水 大 先生
 講師 綱崎 璃 先生
 講師 橘高 有加子 先生
 SC 笠井 恵美子 先生



本年度の体制

校長	福崎 浩信 (数学)	教頭	星子 真由美 (理科)	教務主任	吉田 昌弘 (数学)
特支教コ-ディ	塚本 祐二 (数学)	図書司書	宮田 さゆり (数学)	研究主任	中村 裕 (音楽)
進路指導主事	塚本 祐二 (数学)	生徒指導主事	前田 範幸 (英語)	保健主事	平野 拓 (保体)
1年主任	穴田 能久 (理科)	2年主任	武内 彰真 (英語)	3年主任	村田 誠至朗 (技術)
1年1組	福田 誠 (数学)	2年1組	武内 彰真 (英語)	3年1組	前田 範幸 (英語)
1年2組	小宮 かおる (家庭)	2年2組	木村 安心 (理科)	3年2組	清永 眞宏 (社会)
1年3組	田中 俊典 (社会)	2年3組	矢野 淳一郎 (保体)	3年3組	馬場 わかな (音楽)
1年4組	安岡 友帆 (英語)	2年4組	宮崎 絢子 (国語)	3年4組	松尾 順平 (数学)
1年5組	中村 裕 (音楽)	2年5組	荒木 慶 (英語)	3年5組	平野 拓 (保体)
1年6組	穴田 能久 (理科)	2年6組	宮田 さゆり (数学)	3年6組	今村 志 (保体)
				3年7組	茂田 美加子 (英語)
共生	担任・・・矢野 和子 (音楽)			吉原 靖 (理科)	
1年副任	古村 充 (国語) 竹下 眞司 (社会) 姫野 翔伍 (理科) 徳岡 恵子 (保体) (旧姓：久保)	2年副任	倉員 康行 (社会) 有吉 良子 (国語) 吉田 昌弘 (数学) 宮田 美恵子 (理科) (佐々木 瑞穂)	3年副任	村田 誠至朗 (技術) 塚本 祐二 (数学) 坂田 征之 (国語) 渡邊 寿夫 (美術)
拠点校指導員	田中 孝 (社会)	事務職員	佐藤 秀雄	教育相談コーディネーター	登 由美子 (理科)
養護教諭	網谷 美知 (市川 彩夏)		山下 亜美	スクールカウンセラー	穂口 まな
PTA事務	スクール・サポート・スタッフ		保健事務補助	スクールカウンセラー	竹下 春花
レティビ-カ	リアム マリンス ケイレブ ムーン	山本 眞紀 金谷 美香	学校司書 坂口 久美子	給食受所	田上 美紀 江淵 晴美

折田好恵先生→学校生活支援員で1日5時間勤務いただきます。
 田中孝先生→百道中の初任者研修指導教員で毎週火曜日に本校で勤務いただきます。
 富永幸代先生→小田部小の栄養教諭で毎週水曜日に本校で勤務いただきます。

本年度学校行事取扱いについて(4月30日現在)

- 年間を通じて中止するもの
 - ・全国学力・学習状況調査(3年生)
 - ・新体力テスト(2年生)
 - ・体育大会
 - ・遠足
 - ・職場体験学習
 - 1学期は実施せず延期するもの
 - ・生活習慣調査
- ※変更や取扱いの詳細について決まり次第
 随時連絡させていただきます。